

エネルギー利用について（案）

埼玉中部環境保全組合

1. エネルギー利用とは

可燃ごみ処理施設から発生する熱をエネルギーとして利用することです。熱エネルギーを活用することで、化石燃料の代替えエネルギーとなり、CO2排出量が削減できます。エネルギーの利用方法としては、発電、蒸気利用、温水利用などがあります。

2. 新たなごみ処理施設のエネルギー利用の方向性

熱エネルギーの一部を、地元を活用します。

3. エネルギー利用方法の比較

	施設例	メリット	デメリット
発電	電気事業者に売電	<ul style="list-style-type: none">・売電収入の一部を地元を活用できる。	<ul style="list-style-type: none">・ごみの搬入量やごみ質により、売電金額が変動する。
蒸気利用	ビニールハウスなど	<ul style="list-style-type: none">・地域産業への貢献となる。	<ul style="list-style-type: none">・利用者は地域住民に限定されない。また、地域住民でも利用者が限定される。・ビニールハウスなどは従事者の確保が課題となる。
温水利用	浴場施設、温水プールなど	<ul style="list-style-type: none">・地域の交流施設ができる。・健康増進に資する施設となる。	<ul style="list-style-type: none">・利用者は地域住民に限定されない。また、地域住民でも利用しない場合がある。

4. 提案

熱エネルギーを電力にし、新たなごみ処理施設で使わない電気（余剰電力）を電気事業者に売電して得られる収入の一部を、地元を活用します。

安定した収入源となるため、その時々地域が抱える様々な課題に柔軟に活用することができます。

5. 地元の活用の例

地元の地域振興

例) 地域振興に資する活動への支援

地域生活基盤の整備

例) 道路・水路整備など

※ 地元の活用内容は鴻巣市と協議する予定です。